

2023年度 第1回 JSSR プロジェクト委員会

日時:2023年4月11日(月) 19時から20時(Web開催)

(出席、敬称略):

担当理事:橋爪洋、委員長:海渡貴司、副委員長:宮腰尚久

委員:折田純久、宮城正行、今釜史郎、寺井秀富、若尾典充、森幹士、手束文威、大和雄、渡辺慶、中島宏彰、高畑雅彦、長田圭司、吉井俊貴、室谷健太、粕川雄司

オブザーバー:波呂浩孝、松山幸弘、尾崎正大、西田周泰、富田浩之

(欠席、敬称略): 後藤励、八木満、宮崎正志

議題

1. 橋爪担当理事のご挨拶
2. 新規プロジェクト研究 「頸椎術後外固定(頸椎カラー)の有用性について」
進捗状況の報告 (粕川先生)
千葉大学 古矢丈雄先生に千葉大学 IRB 審査を進めていただいている。事務局も担当いただくことを快諾いただいた。次回プロジェクト委員会より古矢先生にも参加いただくこととなる。
3. 波呂理事長より新規プロジェクト研究開始の経緯、意義についてご発言
4. JSSR 学会主導セッション発表内容に関する検討
 - ・頸椎由来の頸肩腕症状に対する薬物治療の臨床経済研究(若尾先生)
解析結果について、全体の獲得 QALY、ICER について説明いただいた。副次解析テーマについては、次回委員会で候補を提示いただくこととなる。
 - ・腰曲がりに対する運動療法のエビデンス創出に関する研究: JSSR プロジェクト研究(中間報告)(寺井先生) 運動療法が臨床評価、画像評価のそれぞれで有効である例が全体の3割ほど存在することが示された。今後有効性につながる因子の解析を進める。
5. 登録終了プロジェクト研究 データ収集・登録状況: 解析方法等ロードマップ
 - 腰曲がりに対する運動療法: (寺井先生)
本年末にデータ収集を完了し、2024年 JSSR での解析結果報告を目標とする。
 - 頸肩腕症に対する薬物治療(若尾先生)
2023年5月に論文投稿を行い、副次解析論文の投稿につなげる予定である。
6. 登録中プロジェクト研究
 - 1度すべりに対する除圧 vs 固定術(尾崎先生)
症例登録は概ね順調であるが、減少傾向にあり再度症例登録促進に向けた働きかけを行う。
 - 成人脊柱変形に対する手術治療(大和先生)

症例登録は減少傾向であるが、延長した期間内には目標症例数に到達する見込みである。

- 腰曲がりに対する保存治療（長田先生）

症例登録数は依頼を行った翌月に回復したが再度減少傾向にある。引き続き症例登録依頼を行っていく。

- 神経根ブロック研究（宮城先生）

大学病院が多く症例登録が遅れているが、修正後の 100 症例には数ヶ月で到達する見込みである。

7. 新プロジェクト委員紹介（予定）

慶応大学 尾崎正大先生

山口大学 西田周泰先生

千葉大学 古矢丈雄先生

所属変更

国際医療福祉大学 八木満先生

8. 今後の予定

2023 年 6-7 月頃（Web 開催）